

# 令和元年度 第1回 明舞まちづくり委員会 議事録(概要)

日時 令和元年(2019年)8月19日(月)午後5時5分~午後7時0分  
場所 松が丘ビル 3階 大会議室(明石市松が丘2丁目3-7)  
事務局 兵庫県 県土整備部 住宅建築局 住宅政策課  
進行役 神戸まちづくり研究所 理事長 野崎隆一

明舞団地のまちづくりについて情報交換や意見交換を行う標記の会を開催しました。

## 1 代表挨拶(本会代表 岡松治利 ※明舞まちづくり推進協議会 会長)

- 明舞センターの再生事業は昨年末から今年の春に掛けて概ね完成したと思うが、北センター、朝霧サブセンター、矢元台サブセンターのことが残っている。公社にはその活用方針等を検討してほしい。
- 団地全体の高齢化の進展についても協議してほしい。

## 2 報告事項

### (1) 地域関係

#### ア. 防災大作戦2019(神戸光生園)

- 今年で3回目となる防災イベントを今秋も開催予定である。福祉施設を身近に感じてもらうとともに、災害時に福祉避難所となることを知ってほしい。地域の方が楽しめるイベントを目指す。

#### イ. 松が丘校区まちづくり協議会の取り組み(同協議会)

- 平成26年度に策定した松が丘まちづくり計画書のビジョン、「住民みんなが交流し、助け合う松が丘」の実現に向け、四つの部会が活動している。今年度は、来年度からの新たな5ヵ年計画を検討する。

#### ウ. ひまわり会の活動(同会)

- 配食数の変化から、施設で召し上がる方の増加など高齢化の進展が見て取れる。ボランティアの平均年齢も71.5歳となる中、食事の提供だけでなく老若男女が参加できる地域活動に取り組んでいる。

#### エ. 今年度の明舞祭(明舞サポーター会議)

- 明舞祭は今秋も開催予定である。前回は多種多様なイベントを実施したが、今回は健康福祉と音楽にテーマを絞る。新たに立ち上げたホームページを使ったPRも行う。

#### オ. くるくる明舞 住まいのなんでも個別相談会(くるくる明舞運営委員会)

- 年4回開催している相談会では、法律・お金の専門家から処分業者や葬儀屋まで、幅広い内容に対応できる体制をとっている。9月は特別講演「自分で決める老後の住まい方」も同時開催予定である。

#### カ. めいまいキッズマルシェ(めいまいキッズマルシェ事務局)

- 要らなくなった服やおもちゃを子供たちが売り買いするフリーマーケットを、今秋3回にわたり開催予定である。高齢者向けイベントが多い中、あえて子供に絞って企画した。

#### キ. マンションのエリアマネジメント(神戸まちづくり研究所)

- マンション管理組合をネットワークし、共通課題を相談・解決するための場をつくらうとしている。会員向けセミナーも予定している。なお今後、まちづくり委員会で会員が管理組合の状況を報告することも一案と思った。

## ク. あそぼう！ひがしたにこうえん 夏イベント（公的資産活用検討会）

- 今春のイベントに続き、先日も東谷公園を活用した子育て世帯向けイベントを開催した。県立大の学生がさまざまな水遊びを企画したが、猛暑のせいかな広報不足か、来場者数は芳しくなかった。再挑戦したい。

## ケ. 県立大明舞プロジェクト（兵庫県立大学）

- 社会問題となっている孤独を「コミュニティへの経路を喪失した状態」と定義し、経路確立について、買い物等の実生活に必要な行動を手がかりとして、学際的に研究する予定である。

## コ. 明舞団地と社会リハビリテーション（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部）

- 社会リハビリテーション学科にはサービスマニエールという実践科目がある。明舞でのボランティア等を通して、学生だけでなく教員も学んでいる。

## サ. 認知症とまちづくりに関する調査結果（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部）

- 今春実施した調査の結果、明舞には認知症の可能性のある方が男性で15%、女性で13%いることなどが分かった。今後、行政と連携して支援事業を進めるとともに、継続調査や個別相談会を行う。

## シ. めいまいテラスの活用（リンクエフ）

- ビエラ明舞にある めいまいテラスの活用について意見交換する めいまい井戸端会議を毎月開催している。新しく移り住まれた方や既に活動されている方も、参加・活用している。

## ス. ハウスケア便利サービス（シメス）

- 水まわり、内装などあらゆる住まいのトラブルに対応するサービスを行っている。プロパンガス供給事業等で長年培った技術、知識、サービスで地域貢献したいので、何でも相談してほしい。

## （2）行政（住宅・施設管理者）関係

### ア. 県営住宅の建替等（兵庫県 公営住宅課）

- 明石舞子北第1住宅と明石舞子南住宅の建替事業を進めている。老朽化の著しい住宅の建替を行うことで、居住水準の向上等を推進し、安全・安心で良質な住宅の供給を図る。

### イ. サブセンター等空き区画活用事業等（兵庫県住宅供給公社 明舞団地再生課）

- 三つのサブセンター及び第2センタービルの賑わいづくりのため、新規出店者に対して改装費や賃料を助成する。県とともに実施する新規事業である。

### ウ. サブセンター等におけるリノベーションスクール（兵庫県 住宅政策課）

- 空き物件等をリノベーション・利活用し、まちの再生を図る取組が全国で広がっている。明舞でも、起業希望者や地元住民等が学び合うイベントを開催予定である。

### エ. きたせんタウンの賑わいづくり（兵庫県住宅供給公社 播磨・明舞管理事務所）

- 北センターの店主らとともに賑わいづくりに挑戦するとともに、成果の発信にも力を入れている。将来的には他のサブセンターでも取り組みたい。また、若者を呼び込むには市との連携も必要である。

## 3 意見交換

- 建替えが進む県営住宅の一例であるが、入居者は約100人、半数以上が一人暮らしである。今後、自治会等はどうなるのか。学識者らは現状を認識しているのか。具体的な議論が必要。
- 県と公社が新規出店者を誘致するにしても、地元のニーズを踏まえないと、乱雑な商業競争を生じさせるし、商業者どうしが助け合うことも難しくなる。

- 県と公社の事業は新規出店者に傾注し、地元商業者を助けたり活用したりすることがない。結果、よそから人を呼んで去られという状態が永く続いている。
- リノベーション関連の事業は、県と公社が昨年度も実施していた。県は今年度も類似の事業を予定しているとのことだが、なぜ同じようなことを繰り返すのか。
- まちづくり委員会が単なる報告会になっている。我々が分からないことを聞いても参加する意義は低いと感じる。このことについて何か提案してほしい。
- 地域の集まりは、内容や場所によって参加人数に差がある。その差について考えるとともに、粘り強く広報活動を行うことが重要である。居場所づくりは、奇をてらわず地道な努力を続けるしかない。

#### 4 総評（神戸商科大学 名誉教授 小森星児）

- 本日は取組予定の話が多かった。実際にどんな取組になるのか、どんな成果を生むのかについては今後、分かることであり、期待している。
- 明舞に最近移住した知人が景色や利便性等に満足だと言っていて、嬉しかった。ただ、80代後半なのに、越して早々、マンション管理組合の理事長を頼まれたと聞いて、人材不足だと感じた。
- 認知症対策など、学識者が役立てることは残っている。日本のオールドニュータウンを担うモデルであることを意識して、アドバイスをいただければありがたい。
- 私の住むまちは盆になると、みこしをかつぐ子供たちで賑わう。子供時代の良い思い出にもなる。ニュータウン整備時、宗教的要素が盛り込まれなかったことが悔やまれるが、神社の誘致等は今からでも遅くない。
- 盆で帰省したかつての子供たちは、旧交を温めるとともにさまざまな地域課題について相談し合う。古くからのまちには、そうした資産がある。
- 子供たちのために、良い思い出をつくってほしいというのが本日の私の願いである。

以上

